

# 拓殖大学 学報

第 26 号

昭和四十六年七月二十五日  
 東京都文京区小日向三丁目  
 四番一四号 T1112  
 拓殖大学  
 広報委員会

昭和46年7月25日発行(2)

拓殖大学学報

## 豊田教授が総長に就任

—— 第三代総長選挙経過 ——

六月二六日開催の臨時評議員会において、学校法人拓殖大学の第一三代理長に、豊田佛助教授(商学博士、学長、理事)が全会一致をもって選ばれた。

豊田総長の就任によって、本学七〇余年の歴史の中で、はじめて拓大出身の総長を推戴することとなった。

新総長自身が就任の挨拶で、

「私の半生は拓大と終始一貫している。そういう意味では、歴代総長の中で最も拓大と関係が深い。拓大も創立以来七〇周年を迎え、この辺で拓大で学び、教鞭をとっている人を総長に迎えようという気運が、理事、評議員の中におきてきて私を選んだものと思う」と述べられておられるように、昭和二年に

本学研究科に奉職されて以来、四二年間のあいだに、学生主事、本部分書、学生課長、図書館長、研究所長、幹事、総長事務取扱(一回)、専務理事、商学部長、短大学長、学部学長、評議員、理事など、大学の要職の一として就任されざるはなきほどの巾広い経歴をつんで、今日にいたっている。

なお、豊田総長推戴にいたるまでの選挙経過の概要は次のとおりである。

第二代中曾根康弘総長(現名誉総長、理事)の任期が、本年三月をもって満了、再任

を固辞されたので、後任の「総長推せんについて」、四月一七日、臨時評議員会を開催。この日の評議員会で、「総長推せん委員会」を設け、選出母体別評議員の中から二〇氏を委員に選んだ。

四月二四日、五月一日開催の「総長推せん委員会」で、総長の条件および就任の可能性について審議がなされた。とくに一日の委員会では、総長候補者を各委員が二名連記で、学内外より推せんすることに決定。

五月二二日開催の第三回委員会では、各委員より推せんされた一四名の総長候補者の中から、さらに三名連記で再推せんした。

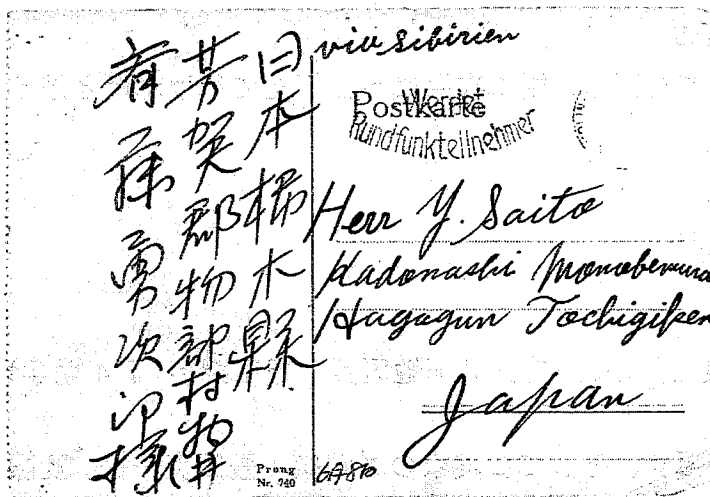
五月二九日第四回委員会開催、前回の投票結果によると、学内から三名の教授が総長候補者に推せんされたので、同日開催の定時評議員会の席上、三候補者を推せんするにいたった経過報告がなされた。

六月四日、第五回委員会開催、総長就任の可能性を最も重視して、三候補者の中から各委員が一名を投票することを決定。六月二二日に開票した結果、第一三代理長に豊田佛助学長(総長事務取扱)が推せんされた。

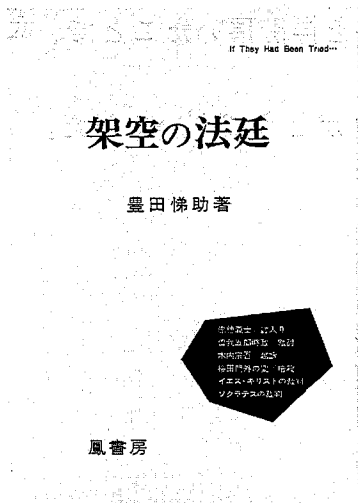
六月一五日開催の理事会においても、全会一致をもって豊田教授を総長として評議員会に推せんすることを決定。二四日、豊田教授内諾、かくて、二六日開催の臨時評議員会に新総長推せん案を提案したところ、全会一致、豊田教授を総長に推戴する旨が可決され、ここに第一三代理長が誕生した。



ご夫妻

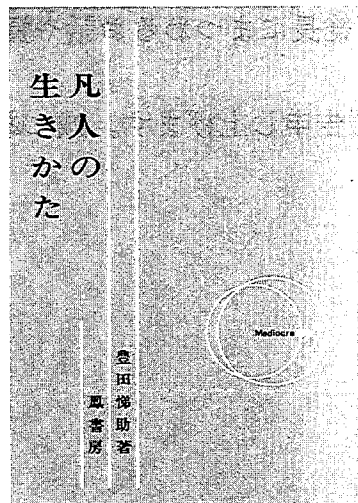


ドイツ留学時に兄へ送った  
 絵はがき



著作本

風書房



風書房



生家の書